

# 処理水放出 きょう開始

## 経産省 風評対策「小売業協力を」

東京電力福島第一原発の処理水について、東電は早ければ24日午後1時から海への放出を始め、廃炉完了の目標の2051年までに終える計画だ。経済産業省は23日、放出を前に風評・流通対策の会議を開き、小売業界の団体トップに

「三陸常磐もの」の取り扱いや販売促進への協力を求めた。▼社会面Ⅱ国・東電を提訴へ

東電は気象などに支障がなければ、予定通り放出を始め、1回目は、すでにトリチウム以外の放射性物質の濃度が基準を下回ることを確認した約7800トンを約17日間かけて放出する。

放出を控えた23日、西村康稔経産相は小売業界の団体トップらと会談。

「『三陸常磐もの』をぜひ取り扱いたいだけでなく、お願いしたい」と協力を求めたうえで「安全性を

確保しながらデータを公表して安心につながるよう取り組む」と述べた。

日本チェーンストア協会の三枝篤博会長（イトヨーカ堂会長）は「消費者が安心してお買い求

めいただける環境に向けてぜひ万全の対策を行っていただきたい」と要望。トリチウムなどのモニタリング結果の速やかな公表や水産品の検査に万全を期すよう求めた。

放出にあたり、全国漁業協同組合連合会の坂本雅信会長は「子々孫々まで漁業が継続できるように」と訴えている。政府は風評対策などに充てる計800億円の基金を設置。岸田文雄首相は放出を決めた22日の関係閣僚会議で、「海洋放出にかかる風評影響に対し、責任を持って適切に対応していく」と強調した。

（相原亮）